

2026年度 北海道大学大学院
文学院修士課程入学試験（前期）

試験科目名	専門試験（アイヌ・先住民学）
出題の意図	<p>アイヌ・先住民学では、ひとつの学問領域にとどまらない学際的研究が求められる。本問題は、アイヌ・先住民学講座での研究に必要な基礎知識について問うとともに、専門分野に関する知識やその説明力について、学部レベルでの達成度を確認するものである。</p> <p>1は、必答問題として、アイヌ・先住民に関連する学史と研究倫理について、基礎知識を問う問題である。</p> <p>2～5は、選択問題として、アイヌ・先住民に関連する個別具体的なテーマについて、基礎知識を問う。2は、アイヌ・先住民の文化遺産と権利回復のかかわりについて、3は、アイヌ・先住民の考古学的研究について、4は、アイヌ・先住民の伝統的な知識の現代的意義について、5は、アイヌ・先住民研究と深くかかわる「マジョリティ研究」の視点について、それぞれ見識を問う問題である。</p>

2026 年度
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験） アイヌ・先住民学 全1枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 1枚、解答用紙 2枚を配付する。

以下の必答問題 $\boxed{1}$ と、選択問題 $\boxed{2}$ ～ $\boxed{5}$ から選んだ1題の計2題に回答しなさい。必答問題と選択問題の解答は別の解答用紙に記入し、それぞれの解答の冒頭に問題番号を明記すること。

$\boxed{1}$ （必答問題）

以下の事項 (1), (2) についてそれぞれ説明しなさい。

- (1) 社会進化論の概要と問題点
- (2) アイヌ・先住民研究における FPIC^注

注 「FPIC」…… Free, Prior, and Informed Consent.

（「自由意思による、事前の、十分な情報に基づく同意」）

$\boxed{2}$ （選択問題）

先住民考古学においては、先住民族の考古遺産を通じた先住民族の祖先との直接的なつながりや、自ら遺産の保全や管理に関与することで、植民地化からの脱却（脱植民地化）を図る効果があることが指摘されている。北海道島におけるチャシは、地表面から確認できる遺構であるが、その分布と存在場所が、アイヌ民族の権利回復にどのような役割を果たす可能性があるのか、先住権との関係から説明してください。

$\boxed{3}$ （選択問題）

遺跡から出土する生活用具が意図的に破砕（変形）されていた場合、考古学者はモノ送りなどの儀礼行為と結びつけて解釈することがある。このような意図的に破砕（変形）されている資料を儀礼行為と関連づけるためには、どのような考古学的な状況証拠（考古学的コンテクスト）が必要とされるのかについて説明してください。

$\boxed{4}$ （選択問題）

先住民族の文化遺産をめぐる議論においては、先住民族にとっての現代的意義の重要性がしばしば指摘されている。植民地化の過程において収奪された、狩猟文化を含む先住民族の伝統知（Traditional knowledge）や先住民知（Indigenous knowledge）の回復は、先住民族の権利においてどのような意義と効果があると考えられるか、説明してください。

$\boxed{5}$ （選択問題）

学校教育において、教員が民族的マジョリティである場合、教育の中でマイノリティについて取り扱うことに躊躇や抵抗を感じることもあると言われる。その理由・内容としてどのようなものが考えられるか、またそれが形成される背景にはどのような事情が作用しているか、マジョリティが持つ要素と結び付けつつ論じなさい。